

## 4. 移動円滑化に関わる問題点と課題

### 4-1 既存アンケート調査結果

#### (1) 瀬戸市障害者福祉基本計画 アンケート調査

移動における高齢者、障害者の方の実態や意向について、過去のアンケート等を整理し、これらに基づきながら構想の策定を進めます。

以下は、平成19年3月瀬戸市障害者福祉基本計画（第2次）「以下、福祉基本計画という。」策定時に実施されたものです。

#### ①実施期間

平成16年10月4日～10月18日

#### ②アンケート調査の対象者

- ・身体障害者（身体障害者手帳所持者 平成16年4月1日現在 4,063人）
- ・知的障害者（療育手帳所持者 平成16年4月1日現在 653人）
- ・精神障害者（精神障害者保健福祉手帳所持者 平成16年4月1日現在 251人）

#### ③アンケート対象者の抽出

- ・障害部位、等級、年齢の区分などを勘案し抽出
- ・抽出に際しては、集計結果の精度も考慮し、要求精度5%、信頼率95%として算出

#### ④対象者別の配布数・回収数・回収率

対象者	配布数	回収数	回収率
身体障害者手帳所持者	990	577	58.3%
1. 視覚障害者	168	79	47.0%
2. 聴覚・平衡機能障害	131	76	58.0%
3. 音声・言語・そしゃく機能障害	29	15	51.7%
4. 肢体不自由	362	172	47.5%
5. 内部障害	300	175	58.3%
無回答	—	60	—
療育手帳所持者	250	128	51.2%
精神障害者保健福祉手帳所持者	251	124	49.4%
合計	1,491	829	55.6%

## ⑤アンケート調査の結果

「福祉基本計画」及び同基本計画アンケート調査報告書において、障害者の方の実態（学校や仕事、通院以外での外出の回数）と意向（外出するうえで、困ること）は、以下のとおり整理されています。

### 1) 問題点と課題

#### ■問題点

- ・アンケート調査結果をみると、障害者において障害が重いほど外出頻度は少なくなる傾向にあります。また、外出で困ることとして、身体障害者では、駅での階段・段差やトイレ、公共交通の利便性等に問題がみられます。
- ・知的障害者では、公共交通の利便性のほか介助者等がないことが挙げられており、精神障害者では、外出にかかる経費や対人的な問題が挙げられています。

#### ■課題

- ・障害者が、地域で生活する上で必要な移動手段を確保し、個々の障害や生活の状況等に応じて移動手段を選択することができるよう、公共交通機関の種々の移動サービスの実施について総合的に整備する必要があります。
- ・そして、駅舎、バス停、車両等公共交通機関の施設や設備等が、すべての人にとって利用しやすくなるような改善や、介助等の人的な対応の充実が図られるよう、公共交通事業者に理解と協力を求める必要があります。

## 2) 調査結果（障害者社会福祉基本計画 アンケート調査報告書より抜粋）

### ■学校や仕事、通院以外での外出の回数 [単数回答]

#### <全体>

学校や仕事、通院以外での外出の回数について、身体障害者においては、「週に数回」の割合が最も高く、32.7%となっており、次いで、「月に数回」が27.1%、「ほぼ毎日」が21.7%となっています。知的障害者においては、「週に数回」の割合が最も高く、35.8%となっており、次いで、「月に数回」が29.2%となっています。精神障害者においては、「月に数回」、「ほとんど外出しない」の割合が24.6%、「週に数回」の割合が24.5%と高くなっています。

#### <身体障害者>

障害の部位別にみると、平衡機能障害、音声・言語障害では、他の障害に比べ、「外出できない」が多くなっています。

等級別にみると、障害の程度が重くなるにともない、外に出る回数が少なくなっています。

#### <知的障害者>

年代別にみると、18歳未満では、「一週間に数回」が多くなっています。18～64歳では、「1か月に数回」が多くなっています。

判定別にみると、A判定では、「一週間に数回」が多くなっています。B判定、C判定では、「1か月に数回」の人が多くなっています。

#### <精神障害者>

年代別にみると、18～64歳では、「週に数回」、「月に数回」が多くなっています。65歳以上では、「ほとんど外出しない」、「外出できない」が多くなっています。

等級別にみると、3級では、2級に比べ外に出る回数が多くなっています。

---

※身体障害者の判定：障害の部位により基準は異なるが、等級数が小さいほど障害の程度が重くなる。

※知的障害者の判定：A（重度）、B（中度）、C（軽度）に判定されます。

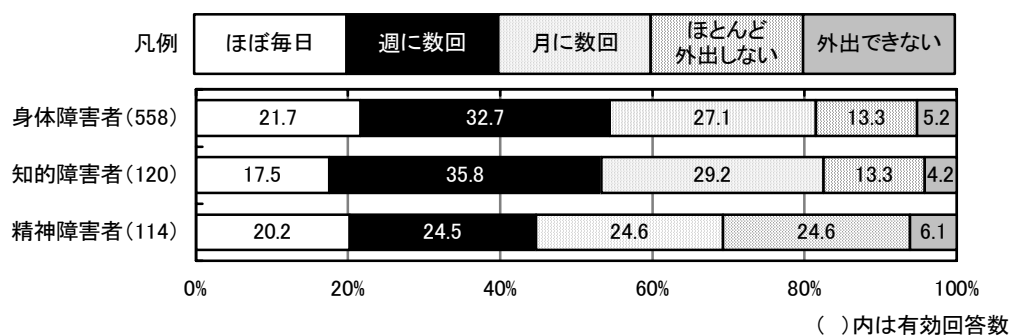
知的障害者が各種の援護や制度上の便宜を受けるために療育手帳を交付します。

（出典：瀬戸市ホームページ）

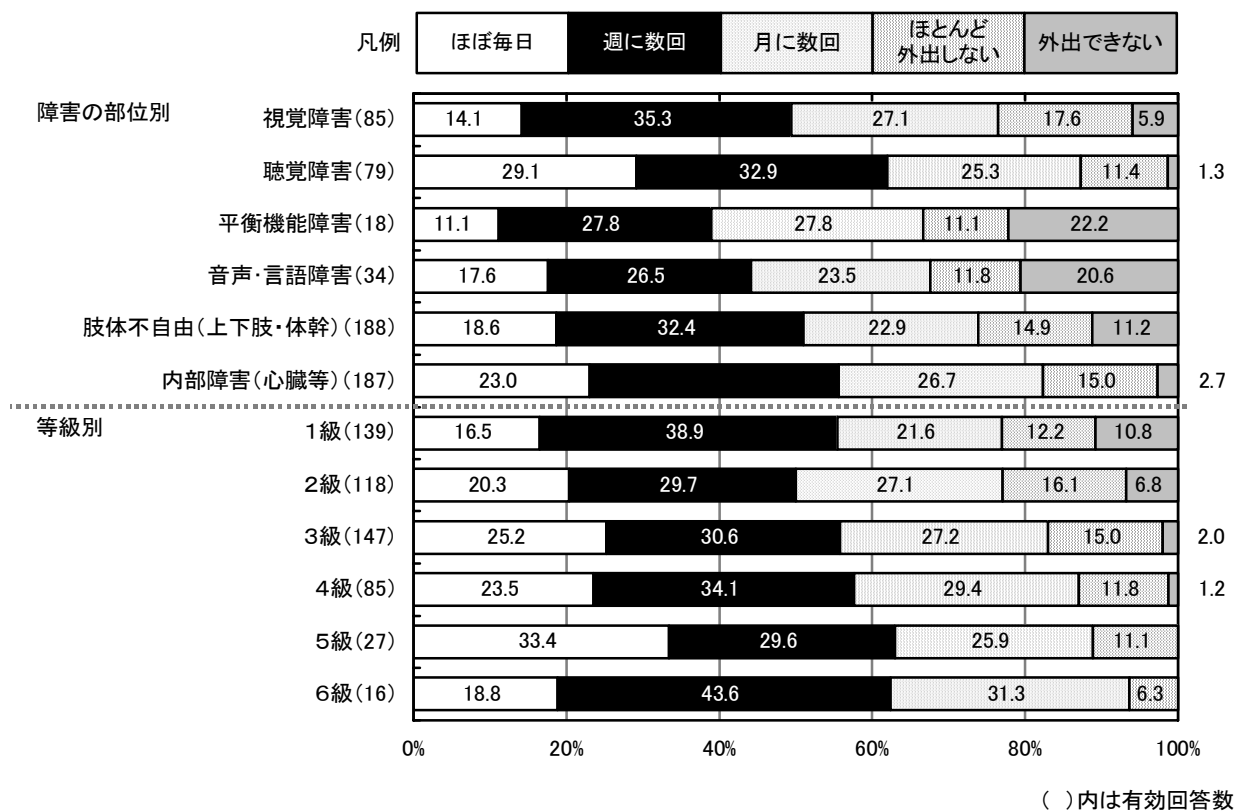
- ※精神障害者の等級：
- 〈1級〉 精神障害があつて身のまわりのことがほとんどできないか、日常生活に著しい制限を受けており常時援助を必要とする程度のもの
  - 〈2級〉 精神障害があつて日常生活もしくは社会生活が著しい制限を受けるか、又は著しい制限を加えることを必要とする程度のもの
  - 〈3級〉 精神障害があつて日常生活もしくは社会生活が制限を受けるか、又制限を加えることを必要とする程度のもの

（出典：愛知県精神保健福祉センターホームページ）

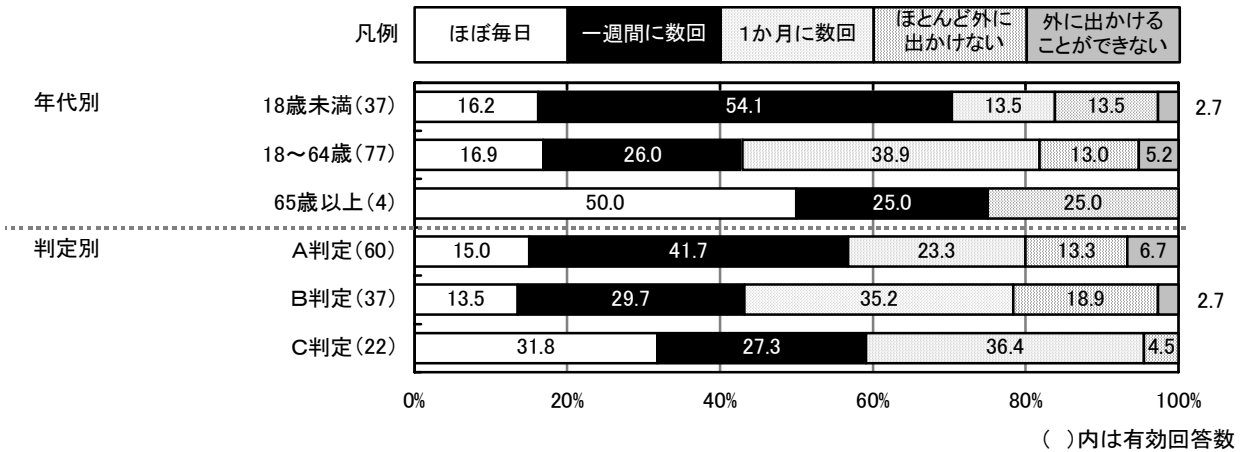
<全体>



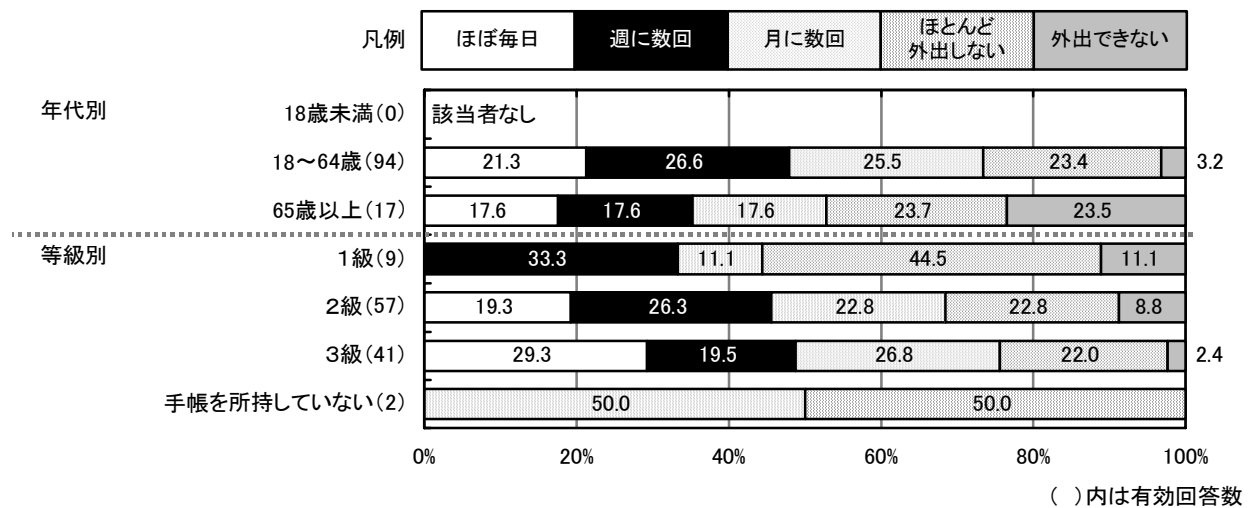
<身体障害者（障害の部位、等級別）>



<知的障害者（年代、判定別）>



<精神障害者（年代、等級別）>



## ■外出するうえで、困ること[複数回答]

### <全体>

外出するうえで、困ることについては、「特に困ることはない」を除いて、身体障害者においては、「駅を利用する際に、段差や階段が多い」の割合が最も高く、32.5%となっており、次いで、「電車・バス等の便が悪い」が23.2%、「歩道がなく危ない」が18.0%となっています。知的障害者においては、「付き添ってくれる人がいない」の割合が最も高く、17.8%となっており、次いで、「電車・バスなどが少ない」、「出かけるのにお金がかかる」が15.9%、「じろじろ見られたり、指をさされたりする」が15.0%となっています。精神障害者においては、「出かけるのにお金がかかる」の割合が最も高く、32.4%となっており、次いで、「電車・バス等の便が悪い」が27.8%、「電車・バス等の利用ができない」が18.5%となっています。

(%)		(%)	
身体障害者	構成比	知的障害者	構成比
電車・バス等の便が悪い	23.2	電車・バスなどが少ない	15.9
電車・バス等が障害に応じて改善されていない	10.0	付き添ってくれる人がいない	17.8
駅を利用する際に、段差や階段が多い	32.5	駅に段差や階段が多い	5.6
駅を利用する際に、障害者用トイレ、エレベーター等の設備がない	12.4	駅に障害者用トイレ、エレベーターがない	6.5
歩道がなく危ない	18.0	行きたい所へ行くまで、人の目が気にかかる	5.6
道路の段差や、側溝にフタがなく危ない	16.8	出かけるのにお金がかかる	15.9
歩道と車道間のスロープに勾配があり危ない	9.2	車のおりが多く、道もせまくて危ない	13.1
道路や歩道に電柱、放置自転車などの障害物が多く危ない	14.8	公園・店などを利用する時に、段差や階段が多い	7.5
公園・商店等を利用する際に、段差や階段が多い	12.6	公園やお店に障害者用トイレ、エレベーターがない	7.5
公園・商店等を利用する際に、障害者用トイレ、エレベーター等の設備がない	8.6	まわりの人が障害について知らないため、必要な手助けがえられない	10.3
音声増幅、ファックス付きの公衆電話が普及していない	5.6	じろじろ見られたり、指をさされたりする	15.0
「耳のマーク」が普及していない	7.2	何もしていないのに、からかわれたりする	8.4
外出に必要な情報が得られない(障害者用トイレ、駐車場の案内図、点字マップの配布先等)	5.8	その他	17.8
視覚・聴覚障害者に配慮した案内表示やアナウンスなどのサービスが適切でない	10.0	特に困ることはない	29.0
介助者などがいない	5.0	有効回答数(件)	107
手話通訳者がいないため、話をするのが困難である	3.6		
目的地へ行くまで、人の目が気にかかる	5.0		(%)
出かけるのにお金がかかる	13.4	精神障害者	構成比
その他	7.0	電車・バス等の便が悪い	27.8
特に困ることはない	27.1	電車・バス等の利用ができない	18.5
有効回答数(件)	499	介護者などがいない	7.4
		目的地へ行くまで、人の目が気にかかる	14.8
		出かけるのにお金がかかる	32.4
		障害への理解が足りず、必要な手助けが得られない	3.7
		じろじろ見られたり、指をさされたりした	4.6
		その他	10.2
		特に困ることはない	28.7
		有効回答数(件)	108

<身体障害者（障害の部位別）>

視覚障害では、他の障害に比べ、「道路の段差や、側溝にフタがなく危ない」、「道路や歩道に電柱、放置自転車などの障害物が多く危ない」が多くなっています。聴覚障害では、他の障害に比べ、「音声増幅、ファックス付きの公衆電話が普及していない」、「耳のマーク」が普及していない、「視覚・聴覚障害者に配慮した案内表示やアナウンスなどのサービスが適切でない」が多くなっています。肢体不自由（上下肢・体幹）では、他の障害に比べ、「駅を利用する際に、障害者用トイレ、エレベーター等の設備がない」が多くなっています。

(%)

	有効回答数(件)	電車・バス等の便が悪い	電車・バス等が障害に応じて改善されていない	駅を利用する際に、段差や階段が多い	駅を利用する際に、障害者用トイレ、エレベーター等の設備がない	歩道がなく危ない	道路の段差や、側溝にフタがなく危ない	歩道と車道間のスロープに勾配があり危ない	道路や歩道に電柱、放置自転車などの障害物が多く危ない	公園・商店等を利用する際に、段差や階段が多い	公園・商店等を利用する際に、障害者用トイレ、エレベーター等の設備がない	公園・商店等を利用する際に、障害者用トイレ、エレベーター等の設備がない
視覚障害	79	24.1	6.3	53.2	8.9	30.4	43.0	17.7	40.5	21.5	8.9	8.9
聴覚障害	75	28.0	4.0	13.3	2.7	14.7	5.3	5.3	13.3	4.0	4.0	4.0
平衡機能障害	17	17.6	23.5	29.4	5.9	17.6	17.6		5.9	5.9	11.8	11.8
音声・言語障害	30	23.3	20.0	30.0	3.3	20.0	10.0	6.7	3.3	3.3		
肢体不自由(上下肢・体幹)	161	22.4	21.7	40.4	23.6	18.6	21.7	14.9	14.3	18.6	14.9	14.9
内部障害(心臓等)	167	21.0	5.4	25.7	10.2	14.4	6.0	5.4	10.2	9.0	7.2	7.2
		音声増幅、ファックス付きの公衆電話が普及していない	「耳のマーク」が普及していない	外出に必要な情報が得られない(障害者用トイレ、駐車場の案内図、点字マップの配布先等)	視覚・聴覚障害者に配慮した案内表示やアナウンスなどのサービスが適切でない	介助者などがいない	手話通訳者がいないため、話をするのが困難である	目的地へ行くまで、人の目が気にかかる	出かけるのにお金がかかる	その他	特に困ることはない	
視覚障害			7.6	27.8	5.1		5.1	16.5	11.4	8.9		
聴覚障害	28.0	46.7	1.3	37.3	6.7	22.7	9.3	18.7	1.3	18.7		
平衡機能障害	5.9	5.9	5.9	5.9	5.9		17.6	17.6	23.5	11.8		
音声・言語障害	6.7		6.7		3.3	3.3	3.3	10.0	13.3	26.7		
肢体不自由(上下肢・体幹)	0.6		8.1	1.9	6.2		9.3	11.2	13.0	17.4		
内部障害(心臓等)	2.4	1.2	5.4	1.8	6.6	0.6	1.2	12.6	5.4	40.1		

## (2) 瀬戸市老人福祉計画・介護保険事業計画策定に係る実態調査

老人保健福祉計画・介護保険事業計画（平成 21 年度から平成 23 年度まで）の策定に伴って実施されたアンケートから、高齢者の移動特性等に関する部分を以下に抜粋します。

### ①実施期間

平成 20 年 2 月 18 日～3 月 6 日

### ②アンケート調査の対象者

- ・一般高齢者（市内在住の、65 歳以上の要介護認定をうけていない方 500 人）
- ・居宅サービス利用者  
（要介護認定を受けており、居宅サービスを利用されている 40 歳以上の方全員）
- ・施設利用者  
（要介護認定を受けており、施設サービスを利用されている 40 歳以上の方全員）
- ・サービス未利用者  
（要介護認定を受けており、介護保険サービスを利用されていない 40 歳以上の方全員）
- ・若年者（2 号被保険者）  
（市内在住の、40～64 歳の方（要介護認定を受けていない方を除く）600 人）
- ・介護サービス提供事業者  
（市内に事務所がある介護保険サービスを提供している全部の指定事業者）

### ③アンケート対象者の抽出

- ・障害部位、等級、年齢の区分などを勘案し抽出
- ・抽出に際しては、集計結果の精度も考慮し、要求精度 5%、信頼率 95%として算出

### ④対象者別の配布数・回収数・回収率

対 象 者	配布数	回収数	回収率
一般高齢者	518	365	70.5%
居宅サービス利用者	2,419	1,508	62.3%
施設利用者	695	437	62.9%
サービス未利用者	505	279	55.2%
若年者（2 号被保険者）	600	296	49.3%
介護サービス提供事業者	64	51	79.7%
合 計	4,801	2,936	61.2%



## ⑤アンケート調査の結果（高齢者一般）

アンケート対象者のうち、高齢者一般の方の生活の実態を整理すると、以下のような問題点や課題が明らかとなりました。

### 1) 高齢者の移動特性と課題

#### ■移動特性

- ・年齢が高くなるにつれ、徒歩による移動が多くなる。
- ・高齢者のひとり暮らし世帯や、高齢者のみの世帯が全調査対象者の約半数となっている状況下において、公共交通の利用や日用品の買物が一人でできない方が、年齢が高くなるにつれ、多くなっている傾向がある。

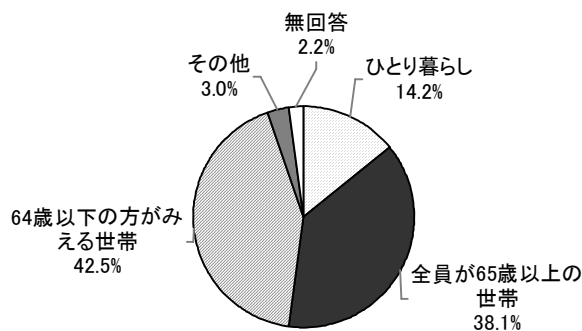
#### ■課題

- ・高齢者の方が安全に安心して、徒歩で移動することができる歩行空間の整備が必要となる。
- ・高齢者が一人でも安心して外出できるような、サポート体制の検討が必要である。

## 2) 調査結果

### ■世帯状況

「全員がひとり暮らし」または、「全員が65歳以上の世帯」がアンケート調査対象者の約半数を占めている。



有効回答数: 365件

### ■普段の生活状況について

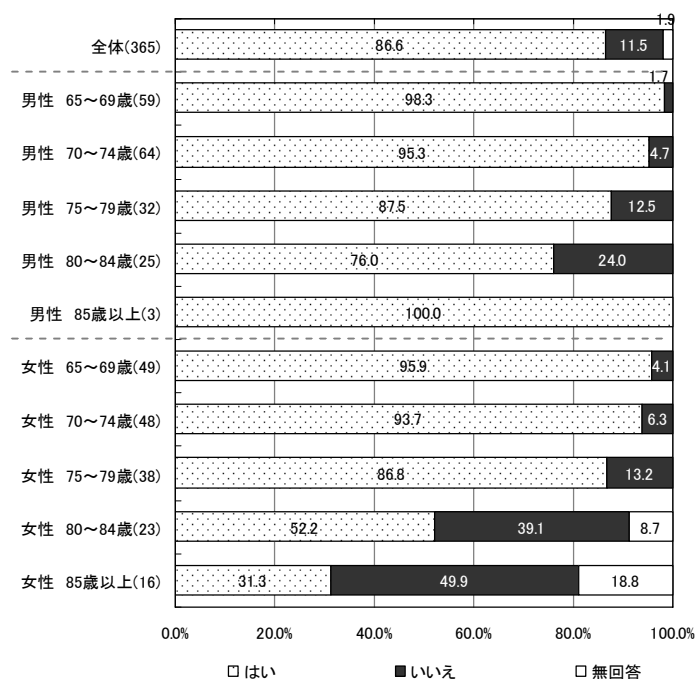
(瀬戸市老人福祉計画・介護事業計画策定に係る実態調査より抜粋)

#### 問 12 あなたは、次の生活動作ができますか。(どちらかに○)

##### ① バスや電車を使って一人で外出できますか

バスや電車を使って一人で外出できるかについては、「はい」の割合が86.6%、「いいえ」の割合が11.5%となっています。

性別年齢別にみると、男女ともに年齢が上がるにつれ、「はい」の割合が低くなる傾向にあります。

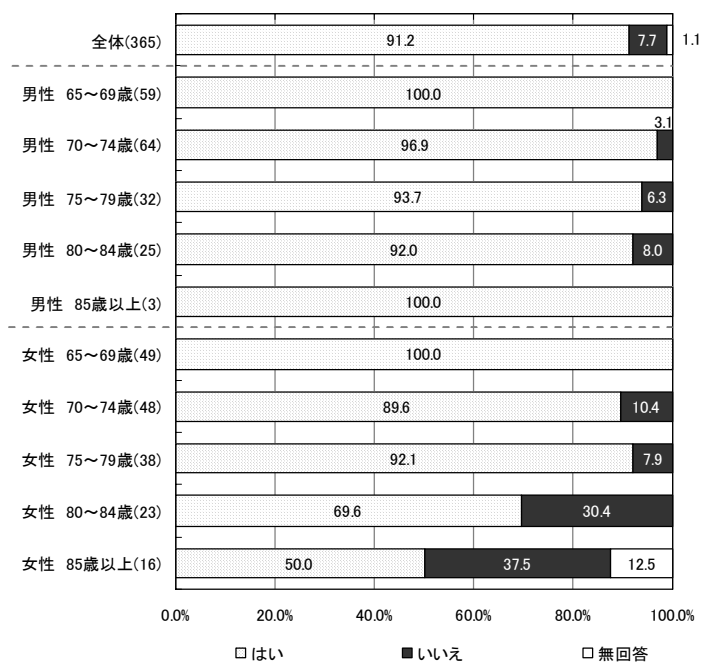


( )内は有効回答数

## ② 日用品の買い物が一人でできますか

日用品の買い物が一人でできるかについては、「はい」の割合が91.2%、「いいえ」の割合が7.7%となっています。

性別年齢別にみると、女性の80歳以上で「いいえ」の割合が3割以上と、他の年齢に比べ高くなっています。

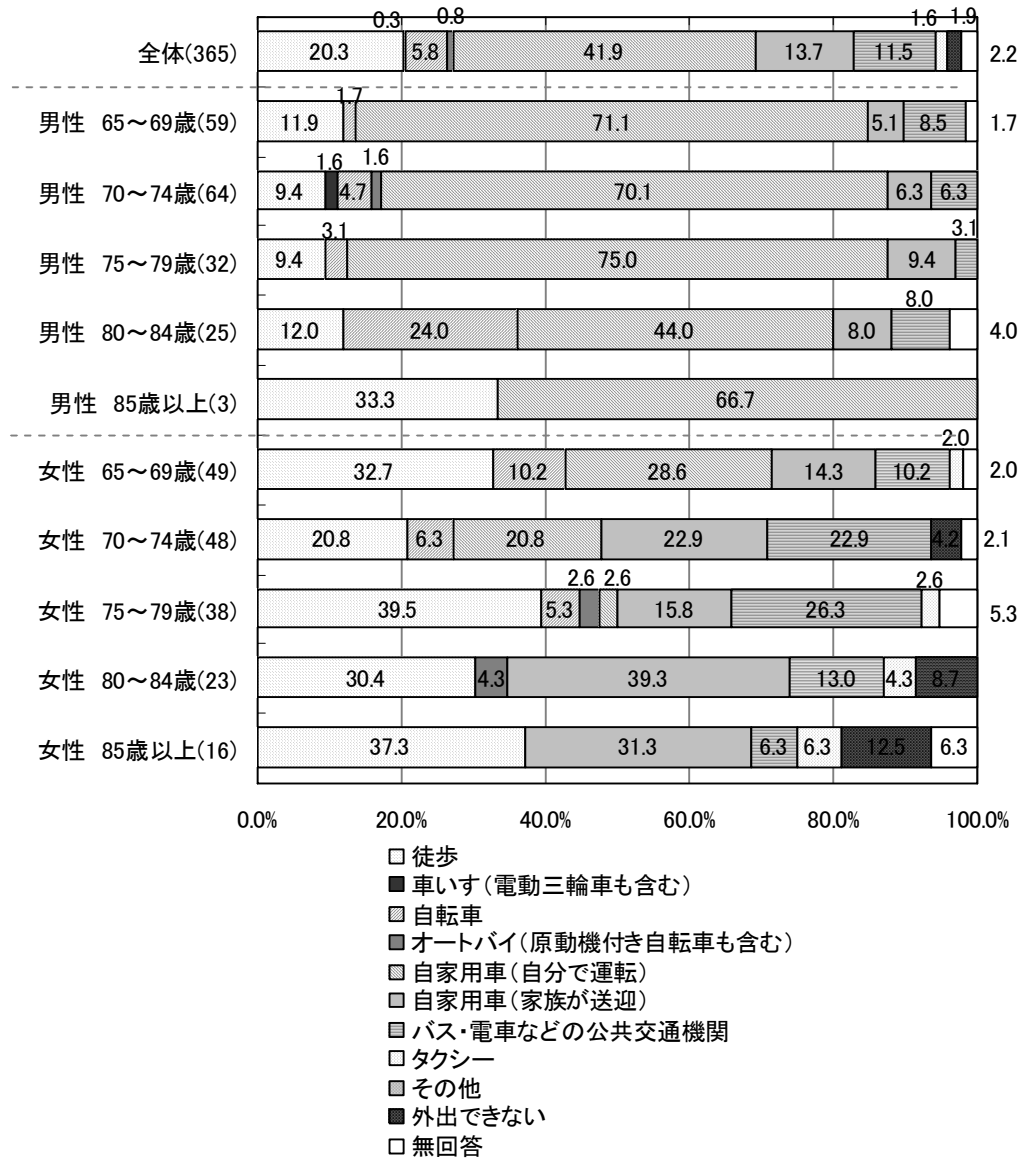


( )内は有効回答数

**問 13 あなたは、普段外出するとき、最もよく使う交通手段はどれですか。(ひとつに○)**

外出手段については、「自家用車（自分で運転）」の割合が 41.9%と最も高く、次いで「徒歩」の割合が 20.3%、「自家用車（家族が送迎）」の割合が 13.7%となっています。

性別年齢別にみると、男性の 65～79 歳で「自家用車（自分で運転）」の割合が 7割以上、女性の 65～69 歳、75 歳以上で「徒歩」の割合が 3割以上、女性の 80～84 歳で「自家用車（家族が送迎）」の割合が約 4割と、他の年齢に比べ高くなっています。



( )内は有効回答数